

小学生・中学生・高校生の「いのち」に対する意識の実態

—「いのちの教育」に関する質問紙調査結果をとおして—

The actual situation of the consciousness for the life with an elementary and junior and senior high school students as a target, through questionnaire survey in relation to “Education of the life”

次世代教育学部教育経営学科

住本 克彦

SUMIMOTO, Katsuhiko

Department of Educational Administration

Faculty of Education for Future Generations

キーワード：いのちの教育, 教育カリキュラム

Abstract : In this study, the author developed questionnaire, for the purpose of grasping the actual situation of the consciousness for the life with an elementary and junior and senior high school students, after that carried out preliminary research, main research. Those test results suggests five following effective points development for “Education of the life” curriculum.

- (1) The child whom I can realize when there is the place that is good for oneself can realize importance of the life.
- (2) The child whom I can realize when supported by others can realize importance of the life.
- (3) The child who thinks that it may be proud can realize importance of the life.
- (4) The child who recognizes that I am rewarded if I make an effort can realize importance of the life.
- (5) The child that I challenge a new thing, and one's possibility is wanted to widen can realize importance of the life.

Keywords : “Education of the life”, educational curriculum

I はじめに

本研究は、科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 課題番号24330254研究課題名「いのちの教育カリキュラムモデルの開発的研究」(2012~2014) に基づき進めたものである。小学生・中学生・高校生の「いのちに対する意識の実態を把握する目的で、「いのちの教育」に関する質問紙を作成し、予備調査、本調査を実施した。その結果を報告する。また、その結果より教育現場で実践可能で、効果的な「いのちの教育」カリキュラム開発の要諦を探りたい。

II 研究目的

本研究の目的は、小学生・中学生・高校生の「いの

ち」に対する意識の実態を把握することである。そして、その実態を踏まえ、「いのちの教育カリキュラムモデルの開発」の一助としたい。

III 研究方法

1 調査目的

小学生・中学生・高校生の「いのち」に対する意識の実態を把握する。

2 調査方法

●予備調査

- (1) 実施目的 H県下の高校生・中学生・小学生を対象に、その目的を、「心に関するアンケート」(小学校低・中学年版:小1~小4用)(小学校

高学年・中学校版：小5～中3用）（高校生版：高1～高3用）の予備調査として実施することにある。

(2) 被験者 H県下の小学生・中学生・高校生

- ① 小1～小4合算データ (n=150)
- ② 小5～中3合算データ (n=164)
- ③ 高校生合算データ (n=198)

アンケートは「心に関するアンケート」と称して実施し、質問紙は、無記名実施、個人情報厳正に守られた上で調査、分析等を進めた。

(3) 質問紙作成経過 「兵庫・生と死を考える会」

(近藤靖宏他, 2005) 実施の「いのちに関わる調査」をベースに、発達の視点を踏まえ、青木省三(2011)がエリクソンの発達段階を基に、学童期小学校の低学年と中学年、つまり小学4年生まで、それから学童期から思春期ということで、前青年期10歳から中学生まで、それと青年期中期高校生時代と3つの区分をしているが、それを援用した。これをベースにアンケートは、3種類作成した。質問紙内容については、梶田叡一(2012)によって、以下の5つの領域に分類した。

- ① 「生と死について」
- ② 「自分自身の成長について」
- ③ 「自尊感情」
- ④ 「テレビやゲーム等の視聴に関する経験について」
- ⑤ 「いのちについての意識」

特に、梶田叡一(2012)からは、①「ペットに関する質問項目」を入れるという点。②さらに、「自尊感情」については、「自分のことが好きだ」だけでは不十分だということ。「未来志向性」、自分は将来に対して希望を持っているかどうかという、自分自身の未来や将来をイメージできるかどうかという点が強調された。また、「他者との関係性」についても、自分のことが好きだけでなく、得意なものがある、自分は良いところがある、という他者との関係性の中で自分の良さに気付く、実感することの大切さ、これらについても指摘があり、質問項目にも挙げた。具体的には、「生き方意識インベントリー」(梶田叡一, 2008)を参考にした。

それに加えて、自由記述欄を設けた。分析では、KJ法で、カウンセラー有資格者複数名で、自由記述内容を分類した。

(4) 実施日 2012年11月5日～11月26日

●本調査

(1) 実施目的 予備調査結果を基にして、高校生・中学生・小学生を対象に、「心に関するアンケート」(小学校低・中学年版：小1～小4用)(小学校高学年・中学校版：小5～中3用)(高校生版：高1～高3用)を実施し、「いのち」に対する意識の実態を把握することを目的とする。

(2) 被験者 H県・M県下の小学生・中学生・高校生

- ① 小1～小4合算データ (n=374)
- ② 小5～中3合算データ (n=361)
- ③ 高校生合算データ (n=1068)

アンケートは「心に関するアンケート」と称して実施し、質問紙は、予備調査と同様に、無記名実施、個人情報厳正に守られた上で調査、分析等を進めた。

(3) 質問紙構成 予備調査を基に、以下の5つの領域に分類した。①「生と死について」②「自分自身の成長について」③「自尊感情」④「テレビやゲーム等の視聴に関する経験について」⑤「いのちについての意識」。

(4) 実施日 2013年9月5日～10月4日

●質問紙項目

◆【心についてのアンケート [小1～小4用] の構成】

(1) 学年、性別、祖父・祖母との同居、兄弟姉妹の人数 (Q1)

(2) 生きることや死ぬことについて

- Q2 じどうしゃは いきていますか。【○でかこむ】：物
Q3 クジラは いきていますか。【○でかこむ】：動物
Q4 タンポポは いきていますか。【○でかこむ】：植物
Q5 ひとはいつかしぬとおもいますか。：人
Q6 ひとはいしんでもいきかえるとおもいますか。：人
Q7 あなたは、じぶんがいつかしぬとおもいますか。：人(自分)
Q8 もしじぶんがしんだとしても、いきかえれるとおもいますか。：人(自分)
Q9 あなたの おとうさんと おかあさんは、いつかしぬとおもいますか。：人(親)
Q10 もしあなたの おとうさんと おかあさんがしんだとしてもいきかえれるとおもいますか。：人(親)
Q11 しということばをきいたりみたりしたら、どのようなきもちになりますか。：人(自分；言葉=環境)
Q12 これまでしにたいとおもったことはありますか。：

- 人 (自分)
- Q13 しにたいとおもったわけは なんですか。: 人 (自分)
- Q14 しにたいとおもったとき, どのようにして げんきになりましたか。: 人 (自分)
- Q15 じさつ (じぶんでしぬこと) や さつじん (ひとをころすこと) について ききます。あなたは, つぎのことについて どうおもいますか。: 死について
- ① どんなことがあっても, じさつはよくない。
② どんなことがあっても, さつじんは よくない。
- Q16 つぎのことについて どうおもいますか。: 死について
- ① ひとのしについて, かんがえることがある。
② しぬことは つらい。
③ しんだあとのせかいは あるとおもう。
- (3) これまでのあなたのことについて
- Q17 どのようにすごしますか。: 人 (自分)
- Q18 いえで ペットをかかったことがありますか。: 動物 (ペット)
- Q19 いぬや ねこは いつか しぬとおもいますか。: 動物 (ペット)
- Q20 がっこうで かっている いきものは しんでも また いきかえると おもいますか。: 動物 (飼育)
- Q21 おそうしきに さんかしたことは ありますか。: 人 (葬式)
- Q22 おはかまいりに いったことはありますか。: 人 (墓参り)
- Q23 じぶんの たんじょうびを かぞくのひとに おぼえてもらっていますか。: 人 (自分・家族)
- Q24 じぶんがほごしゃ (おや) に あいさされているとおもっていますか。: 人 (自分・家族)
- Q25 あなたはかぞくのひとと「ひとがしぬこと」について はなしをしたことがありますか。: 人 (自分・家族)
- (4) 今のあなた自身のことについて
- Q26 じぶんのがことが すきだ。: 人 (自分)
- Q27 わたしは, せんせいや ともだち, かぞくなど まわりのひとに ささえられていることを ありがたいとおもっている。: 人 (自分・先生, 友だち, 家族, 周りの人)
- Q28 わたしには, みんなにじまんでできることが あります。: 人 (自分・他者)
- Q29 わたしには, よいところがあります。: 人 (自分)
- Q30 わたしは, そのとき そのばで じぶんなりに いっしょうけんめい がんばれば, さいごに は ぜったい いいことがおこると かんがえています。: 人 (自分)
- Q31 わたしは, いままでとちがう あたらしいことに, いつでもチャレンジ (ちょうせん) し, じぶんのできることを ふやしていきたいと かんがえています。: 人 (自分)
- Q32 いままでに ひととけんかをしたり, いやがらせをされたり, はらがたつことが あったとき「しんで いなくなればいいのに」とおもったことがありますか。: 人 (自分・他者)
- Q33 友だちどうして はなしをしているなかで「しね」とか「ころすぞ」ということばをつかったり, つかわれたりすることが ありますか。: 人 (自分・他者)
- Q34 「しね」とか「ころすぞ」ということが つかわれることについて どうおもいますか。: 人 (自分・他者)
- Q35 今までにじぶんをまもるために ナイフやカッターなどを がっこうに もって きたことがありますか。: 人 (自分・他者)
- Q36 今までにじぶんのからだを ナイフやカッターなどで きずつけたことがありますか。: 人 (自分)
- (5) テレビやゲームなどについて
- Q37 がっこうのある日 (とうこうび), いえで どのようにすごしているかについて ききます。
- ① テレビ (DVDをふくむ) を どのくらい みていますか。: 人 (自分; TV=環境)
② ゲーム (こがたゲームきや パソコンでのゲームを ふくむ) をどのくらいしていますか。: 人 (自分; ゲーム=環境)
③ パソコン (ゲームいがいのつかいかた。れい: メールやチャット, ホームページ) をどのくらいしていますか。: 人 (自分; PC=環境)
- Q38 テレビをみているとき, ひとをなぐったり ころしたりするばめんが できたら どうしますか。: 人 (自分; TV=環境)
- Q39 ゲームをしているひとにききます。どのようなゲームをしますか。: 人 (自分; ゲーム=環境)
- Q40 パソコンをしている (ゲームいがい) ひとに ききます。パソコンをするのと, 友だちと はなすのとは, どちらが たのしいですか。: 人 (自分・他者; PC)
- (6) いのちについて
- Q41 これまで「いのちの たいせつさ」について だれかに おしえてもらった おぼえが ありますか。: 人 (自分・いのち・教育)

- Q42 「ほんとうに ひとのいのちは たいせつなんだ！」と ころのそこから 感じたことがありますか。：人（自分・他者：いのち・実感）
- Q43 今までにころのそこから「たのしかったこと」や「うれしかったこと」がありますか。：人（自分・いのち・実感）
- Q44 今までにじぶんが いていることについて、「ありがたいなあ」という きもちを もったことがありますか。：人（自分・生かされているいのち）
- Q45 しょうがくせいや ちゅうがくせいが、ひとを きずつけるじけんが おきています。このようなじけんが どうして おきるとおもいますか。おもったことを じゅうにかいてください。【自由記述】：人（自分・他者・社会：いのち）
- Q46 なぜ いのちが たいせつだとおもいますか。おもったことを じゅうにかいてください。【自由記述】：人・生き物（自分・先生、友だち、家族、周りの人、ペット等）

◆【心についてのアンケート [小5～中3用] の構成】

(1) 学年、性別、祖父・祖母との同居、兄弟姉妹の人数 (Q1)

(2) 生きることや死ぬことについて

- Q2 人はいつか死ぬと思いますか。：人（死）
- Q3 人は死んでも生き返ると思いますか。：人（死）
- Q4 あなたは、自分がいつか死ぬと思いますか。：人（自分：死）
- Q5 もし自分が死んだとしても、生き返れると思いますか。：人（自分：死）
- Q6 あなたのお父さんとお母さんは、いつか死ぬと思いますか。：人（親：死）
- Q7 もしあなたのお父さんとお母さんが死んだとしても生き返れると思いますか。：人（親：死）
- Q8 「死」という言葉を聞いたり見たりしたら、どのような気持ちになりますか。：人（自分：言葉＝死）
- Q9 これまで死にたいと思ったことはありますか。：人（自分：死）
- Q10 死にたいと思った理由は何ですか。：人（自分：死）
- Q11 死にたいと思ったとき、どのようにのりこえましたか。：人（自分：死）
- Q12 自殺や殺人について聞きます。あなたは、次のことについてどう思いますか。：人（自分：死）
- Q13 次のことについてどう思いますか。
- ① 人の死について、考えることがある。：人（自分・他者：死）
 - ② 死ぬことはつらい。：人（自分・他者：死）
 - ③ 死後の世界はあると思う。：人（自分・他者：死）

(3) これまでのあなたのことについて

- Q14 どのように過ごしますか。：人（自分）
- Q15 家でペットを飼育したことがありますか。：動物（ペット）
- ① 自分が世話をしていたペットが死んでしまったことがありますか。：動物（ペット）
 - ② 死んだペットをどうしましたか。【○で1つ囲む】：動物（ペット）
- Q16 お葬式に参加したことはありますか。：人（葬式）
- Q17 お墓参りに行ったことはありますか。：人（墓参り）
- Q18 自分の誕生日を家族の人におぼえてもらっていますか。：人（自分・家族）
- Q19 自分が保護者（親）に愛されていると思っていますか。：人（自分・家族）
- Q20 あなたは家族の人と「人の死」について話をしたことがありますか。：人（自分・家族）

(4) 今のあなた自身のことについて

- Q21 自分自身が好きだ。：人（自分）
- Q22 わたしは、先生や友達、家族など周りの人に支えられていることに感謝している。：人（自分・先生、友だち、家族、周りの人）
- Q23 わたしには、得意なことがあります。：人（自分）
- Q24 わたしには、よいところがあります。：人（自分）
- Q25 わたしは、その時その場で自分なりに精いっぱい努力をしていけば、最後には必ず大きな成果が得られるに違いない、と考えています。：人（自分）
- Q26 わたしは、今までと違う新しいことに、いつでもチャレンジし、自分の可能性を広げていきたいと考えています。：人（自分）
- Q27 今までに人とけんかをしたり、嫌がらせをされたり、腹が立つことがあった時「死んでいなくなればいいのに」と思ったことがありますか。：人（自分・他者）
- Q28 友だちどうして話をしている中で「死ぬ」とか「殺すぞ」という言葉を使ったり、使われたりすることがありますか。：人（自分・他者）
- Q29 「死ぬ」とか「殺すぞ」という言葉が使われることについてどう思いますか。：人（自分・他者）
- Q30 今までに自分を守るためにナイフやカッターなどを学校に持ってきたことがありますか。：人（自分・他者）
- Q31 今までに自分の体をナイフやカッターなどで傷つけたことがありますか。：人（自分）

(5) テレビやゲームなどについて

- Q32 学校のある日（登校日）、家でどのようにすごしているかについて聞きます。

- ① テレビ (DVDをふくむ) をどのくらい見えていますか。：人 (自分；TV=環境)
- ② ゲーム (小型ゲーム機やパソコンでのゲームをふくむ) をどのくらいしていますか。：人 (自分；ゲーム=環境)
- ③ パソコン (ゲーム以外の使い方。例：メールやチャット，ホームページ) をどのくらいしていますか。：人 (自分；PC=環境)
- Q33 テレビを見ている時，人をなぐったり殺したりする場面が出てきたらどうしますか。：人 (自分；TV=環境)
- Q34 ゲームをしている人に聞きます。どのようなゲームをしますか。：人 (自分；ゲーム=環境)
- Q35 パソコンをしている (ゲーム以外) 人に聞きます。パソコンをするのと，友だちと話すのとでは，どちらが楽しいですか。：人 (自分・他者；PC)
- (6) いのちについて
- Q36 これまで「いのちの大切さ」についてだれかに教えてもらった記憶がありますか。：人 (自分・いのち・教育)
- Q37 「本当に人のいのちは大切なんだ！」と心の底から感じたことがありますか。：人 (自分・他者；いのち・実感)
- Q38 今までに心の底から「楽しかったこと」や「うれしかったこと」がありますか。：人 (自分・いのち・実感)
- Q39 今までに自分が生きていることに対して，感謝の気持ちを持ったことがありますか。：人 (自分・生かされているいのち)
- Q40 小学生や中学生による，人を傷つける事件が起きています。このような事件がどうして起きると思いますか。思ったことを自由に書いてください。【自由記述】：人 (自分・他者・社会；いのち)
- Q41 なぜ いのちが大切だと思いますか。思ったことを自由に書いてください。【自由記述】：人・生き物 (自分・先生，友だち，家族，周りの人，ペット等)
- か。：人 (自分；死)
- Q 6 あなたのお父さんとお母さんは，いつか死ぬと思いますか。：人 (親；死)
- Q 7 もしあなたのお父さんとお母さんが死んだとしても生き返れると思いますか。：人 (親；死)
- Q 8 「死」という言葉を聞いたり見たりしたら，どのような気持ちになりますか。：人 (自分；言葉=死)
- Q 9 これまで死にたいと思ったことはありますか。：人 (自分；死)
- Q10 死にたいと思った理由は何ですか。：人 (自分；死)
- Q11 死にたいと思ったとき，どのようにのりこえましたか。：人 (自分；死)
- Q12 自殺や殺人について聞きます。あなたは，次のことについてどう思いますか。：人 (自分；死)
- Q13 次のことについてどう思いますか。
- ① 人の死について，考えることがある。：人 (自分・他者；死)
- ② 死ぬことはつらい。：人 (自分・他者；死)
- ③ 死後の世界はあると思う。：人 (自分・他者；死)
- (3) これまでのあなたのことについて
- Q14 どのように過ごしますか。：人 (自分)
- Q15 家でペットを飼育したことがありますか。：動物 (ペット)
- ① 自分が世話をしていたペットが死んでしまったことがありますか。：動物 (ペット)
- ② 死んだペットをどうしましたか。【○で1つ囲む】：動物 (ペット)
- Q16 お葬式に参加したことはありますか。：人 (葬式)
- Q17 お墓参りに行ったことはありますか。：人 (墓参り)
- Q18 自分の誕生日を家族の人におぼえてもらっていますか。：人 (自分・家族)
- Q19 自分が保護者 (親) に愛されていると思っていますか。：人 (自分・家族)
- Q20 あなたは家族の人と「人の死」について話をしたことがありますか。：人 (自分・家族)
- (4) 今のあなた自身のことについて
- Q21 自分自身が好きだ。：人 (自分)
- Q22 わたしは，先生や友達，家族など周りの人に支えられていることに感謝している。：人 (自分・先生，友だち，家族，周りの人)
- Q23 わたしには，得意なことがあります。：人 (自分)
- Q24 わたしには，よいところがあります。：人 (自分)
- Q25 わたしは，その時その場で自分なりに精いっぱい努力をしていけば，最後には必ず大きな成果が得られるに違いない，と考えています。：人 (自分)
- Q26 わたしは，今までと違う新しいことに，いつでも

◆ 【心に関するアンケート [高1～高3用] の構成】

- (1) 学年，性別，祖父・祖母との同居，兄弟姉妹の人数 (Q1)

(2) 生きることや死ぬことについて

- Q 2 人はいつか死ぬと思いますか。：人 (死)
- Q 3 人は死んでも生き返ると思いますか。：人 (死)
- Q 4 あなたは，自分がいつか死ぬと思いますか。：人 (自分；死)
- Q 5 もし自分が死んだとしても，生き返れると思います

チャレンジし、自分の可能性を広げていきたいと考えています。：人（自分）

- Q27 今までに人とけんかをしたり、嫌がらせをされたり、腹が立つことがあった時「死んでいなくなればいいのに」と思ったことがありますか。：人（自分・他者）
- Q28 友だちどうして話をしている中で「死ね」とか「殺すぞ」という言葉を使ったり、使われたりすることがありますか。：人（自分・他者）
- Q29 「死ね」とか「殺すぞ」という言葉が使われることについてどう思いますか。：人（自分・他者）
- Q30 今までに自分を守るためにナイフやカッターなどを学校に持ってきたことがありますか。：人（自分・他者）
- Q31 今までに自分の体をナイフやカッターなどで傷つけたことがありますか。：人（自分）

(5) テレビやゲームなどについて

- Q32 学校のある日（登校日）、家でどのように過ごしているかについて尋ねます。
- ① テレビ（DVDをふくむ）をどのくらい見えていますか。：人（自分；TV＝環境）
- ② ゲーム（小型ゲーム機やパソコンでのゲームをふくむ）をどのくらいしていますか。（自分；ゲーム＝環境）
- ③ パソコン（ゲーム以外の使い方。例：メールやチャット、ホームページ）をどのくらいしていますか。：人（自分；PC＝環境）
- Q33 テレビを見ている時、人をなぐったり殺したりする場面が出てきたらどうしますか。：人（自分；TV＝環境）
- Q34 ゲームをしている人に尋ねます。どのようなゲームをしますか。：人（自分；ゲーム＝環境）
- Q35 パソコンをしている（ゲーム以外）人に尋ねます。パソコンをするのと、友だちと話すのとでは、どちらが楽しいですか。：人（自分・他者；PC）

(6) いのちについて

- Q36 これまで「いのちの大切さ」についてだれかに教えてもらった記憶がありますか。：人（自分・いのち・教育）
- Q37 「本当に人のいのちは大切なんだ！」と心の底から感じたことがありますか。：人（自分・他者；いのち・実感）
- Q38 今までに心の底から「楽しかったこと」や「うれしかったこと」がありますか。：人（自分・いのち・実感）
- Q39 今までに自分が生きていることに対して、感謝の気

持ちを持ったことがありますか。：人（自分・生かされているいのち）

- Q40 小学生や中学生、高校生より、人を傷つける事件が起きています。このような事件がどうして起きると思いますか。思ったことを自由に書いてください。【自由記述】：人（自分・他者・社会；いのち）
- Q41 なぜ いのちが大切だと思いますか。思ったことを自由に書いてください。【自由記述】：人・生き物（自分・先生、友だち、家族、周りの人、ペット等）

IV 結果と考察

Q3「人は死んでも生き返るか」の項目につきましては、①小学校1年生から4年生までは、12.7%が「多分生き返る」、あるいは「生き返る」と答えている。②小学校5年生から中学3年生は、15.5%。③高校生においては、12.1%が「多分生き返る」、あるいは「生き返る」と答えている。

「どうして生き返ると思うのか」、複数件数の回答があったものについては、①小学校1年生から小学校4年生までは、「別の人として生まれ変わるから」と、「頑張れば生き返るんだ」と、「医学の進歩」ということを上げている子も複数いる。②小学校5年生から中学3年生までは、「別の人として生まれ変わるから」と、Q3の回答と同様であった。また、「魂として生き返る」等の回答をしている児童生徒も複数名いた。③高校1年生から高校3年生は、「別の人として生まれ変わる」。本回答が多かったが、「生き返ると聞いた」、「テレビで見た」、あるいは「お家の人から聞いた」等、何となく自分自身の願望として「もうこれで（死を迎えることで）自分が終わってしまいたくない」という思いとも読み取れる。

河合隼雄（1987）は、死の教育は幼児期から可能であると述べているが、今後参考にして、実践に結び付ける必要がある。

Q9「これまで死にたいと思ったことがありますか」の質問に対して、①小学校低・中学年では、21.7%、②小学校高学年・中学校で、35.4%、③高校生で、37.5%。発達を追って徐々に増えている。

Q11では「その思いをどう乗り越えたか」。次は上位回答である。①小学校低・中学年では、「我慢した」、「いつの間にか忘れた」、「泣いた」。②小学校高学年・中学生では、「我慢した」、「泣いた」、「いつの間にか忘れた」。③高校生では、「泣いた」、「我慢した」、「いつの間にか忘れた」等が多い。

Q12①「どんなことがあっても自殺は良くない」の質問に対して、「余りそう思わない」、「全くそう思わない」が、小学校低・中学年では、6.6%，小学校高学年・中学年では、11.3%，高学年では、16.3%であった。

Q12②「どんなことがあっても殺人は良くない」の質問に対して、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」が、小学校低・中学年では、2.6%，小学校高学年・中学年では、3.6%，高学年では、6.8%であった。

Q13③「死後の世界をあると思う」の質問に対して、「とてもそう思う」、「少しそう思う」が、小学校低・中学年では、56.7%，中学年では、65.1%，高校年では、59.8%とかなり高い割合である。既述の、「死んで全て終わりたくない」という願望の部分が影響しているのかもしれない。

Q14「どのようにして過ごしてきましたか」の質問に対して、「地域の活動」へは、結構多い。ただ、テレビやゲームが徐々に増えてくる。「自分が世話をしていたペットが死んでしまったことがある」経験をしたのは、小学校低・中学年では、42.7%，中学年では、56.1%，高学年では、57.6%があると答えている。今のペットブームを反映しているようだ。

Q36「これまでのいのちの大切さについて誰かに教えてもらった記憶がありますか」に対して、「教えてもらっていない」、「覚えていない」、「わからない」と答えたのが、小学校低・中学年では、31.4%，小学校高学年・中学生では、23.8%，高校生では、31.8%。この数値は非常に高く、憂慮するべきであろう。「いのちの教育」のカリキュラム化を早急に進めていく必要がある。

自由記述欄では、①「いのちに関わる事件がどうして起きるか」について、小学校低・中学年では、「いじめやけんかがあがるから」「イライラするなどのストレスのせい」等。②小学校高学年・中学生では、「いじめの延長（ストレス発散）」「自分さえよければいい（思いやりの欠如）」「いのちの大切さがわかっていない」「教育、道徳、しつけなどのあり方が問われている」等。③高校生では、「いじめの延長（ストレス発散）」「親のしつけの問題」「思いやりの欠如」「いのちの大切さがわかっていない（いのちの大切さや尊さを教える教育をするべき等）」「TVやゲームの影響」など、いずれも、いじめやストレスとの関連や、道徳教育やいのちの教育の実践や充実を求める子ども達の生の声にふれることができた。

また、「なぜいのちが大切だと思うか」の項目に対しては、①「いのちは1つだから」、「死んだら生き返らないから」の回答が、小学校低・中学年～高校生、全アンケートで一番多い。②特に、小学生低・中学年では、「死んだら、お父さんやお母さんなど、身近な人が悲しむ」、「死んだら、家族や友達など、会いたい人に会えなくなるから」、「死んだら、父母に会えなくなるから」、つまり、「死にたい」と思っても、ブレーキかかる場合は、身近な人の存在を実感できるかどうかという点が多いことも見逃せない。③小学校高学年・中学生では、やはり「いのちは1つしかない」、「死ぬと悲しむ人がいるから」、これがかなり多い。高校生においても同様であった。

クロス集計（図1～7参照）では、「本当に人のいのちは大切なんだと、心の底から感じたことがありますか」という、この質問の回答傾向と特に相関関係の強かった質問項目を7項目を取り上げて、そのクロス集計の結果を3区分別にグラフ化した。

「自分自身が好きだ」の項目については、「本当に人のいのちは大切なんだと心の底から感じたことがある」とのクロスから、特に、小5～中3で「自分自身が好き」なら「人のいのちの大切さ」を実感できることなどが示唆された。

このようにして、クロス集計から見えてきたものとしては、特に以下の5点が挙げられる。

- ① 自分自身に良いところがあると実感できる子は、いのちの大切さを実感できる。
- ② 周りの人に支えられていると実感できる子は、いのちの大切さを実感できる。
- ③ 得意なことがあると思える子は、いのちの大切さを実感できる。
- ④ 努力すれば報われると認識している子は、いのちの大切さを実感できる。
- ⑤ 新しいことに挑戦し、自分の可能性を広げたいと考えられる子は、いのちの大切さを実感できる。

V 結論

小学生・中学生・高校生の「いのちに対する意識の実態を把握する目的で、「いのちの教育」に関する質問紙を作成し、予備調査、本調査を実施した。そして、その結果を報告した。また、その結果より教育現場で実践可能で、効果的な「いのちの教育」カリキュラム開発の要諦として、以下の5点を提案したい。

① 自分自身に良いところがあると実感できる子は、いのちの大切さを実感できる。

このことから、「いいところ探し」（その子の良さ、努力点をフィードバック：学校で、家庭で）実践してもらう。

② 周りの人に支えられていると実感できる子は、いのちの大切さを実感できる。

つまりこのことは、「自分の存在や自分の言動を認めてくれる人を実感できる」「自分は、ひとりぼっちじゃないんだ」を実感できる子は、いのちの大切さを実感できるということで、自分を受け止めてくれる人の存在（教師、保護者、友人等）を実感させる、すなわち学校、家庭、地域社会で好ましい人間関係づくりを進めることが大切である。

③ 得意なことがあると思える子は、いのちの大切さを実感できる。

つまり、「『私には、こんな得意なことがある』を実感できる」子は、いのちの大切さを実感できるということで、「いいところ探し」（その子の良さ、努力点をフィードバック：学校で、家庭で）を実践することが大切である。

④ 努力すれば報われると認識している子は、いのちの大切さを実感できる。

つまり、「『がんばれば、きっと良い結果に結びつくんだ』を実感できる」子は、いのちの大切さを実感できるということで、ここでも上記①、③と同様、「いいところ探し」を実践することが大切である。その他、子ども達に未来志向性を持たせることである。夢を持たせる教育、やる気の喚起の大切さなどが重要だといえる。充実感、達成感、成就感を実感させることが大切で、これは当然キャリア教育にも関わることでもある。

⑤ 新しいことに挑戦し、自分の可能性を広げたいと考えられる子は、いのちの大切さを実感できる。

つまり、「『新しいことに挑戦し、自分の可能性をもっと広げるぞ』と思っている」子は、いのちの大切さを実感できるということで、教師、保護者、友人等の声かけによる「やる気喚起」や「モデルになる人との出会い」等が重要になると考えられる。「いいところ探し」の実践や、人間関係づくりの授業実践、小集団学習授業、意欲喚起・意欲啓発等の授業での実践が大切に

なるであろう。

VI 今後の課題

① 自分自身に良いところがあると実感できる子は、いのちの大切さを実感できる。

② 周りの人に支えられていると実感できる子は、いのちの大切さを実感できる。

③ 得意なことがあると思える子は、いのちの大切さを実感できる。

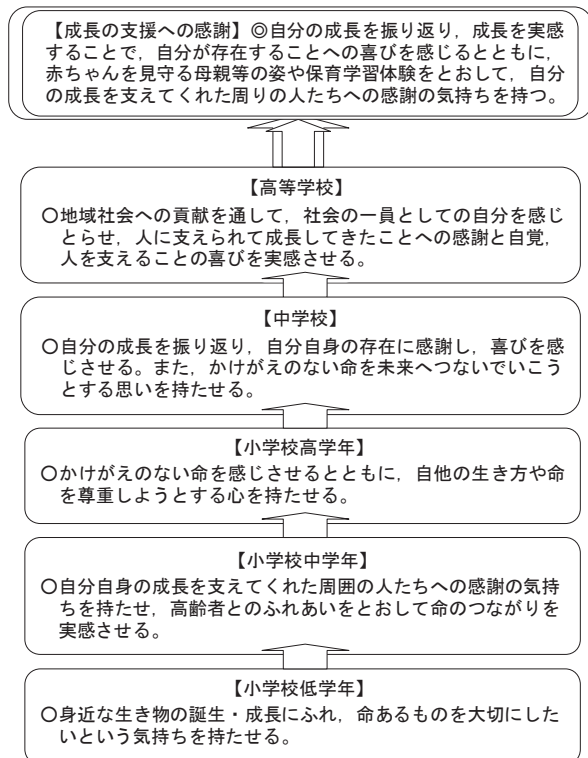
④ 努力すれば報われると認識している子は、いのちの大切さを実感できる。

⑤ 新しいことに挑戦し、自分の可能性を広げたいと考えられる子は、いのちの大切さを実感できる。

以上を踏まえた教育効果のより精緻な検証。それには、実践事前事後での自己肯定感の把握と比較が可能な『i-check』の活用なども効果が期待できる。

また、本調査結果と『<命の大切さ>を実感させる教育への提言』（2008）等を踏まえ、今後より効果的なカリキュラム開発を進めなければならない。（表1参照）。

表1 いのちの教育：カリキュラム全体の構造（成長の支援への感謝）



◆自分が世話をしていたペットが死んでしまったことがありますか。(小1～4:Q18 小5～:Q15)

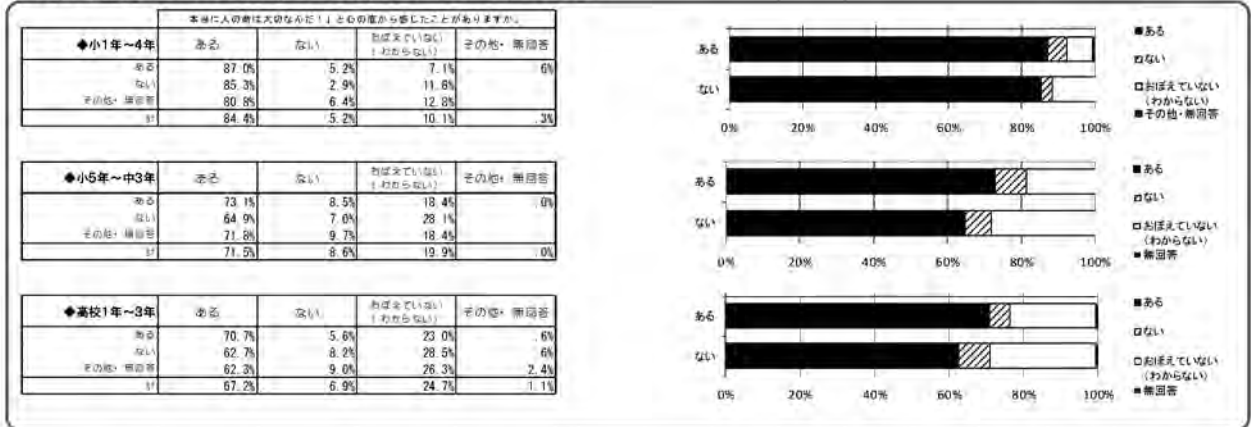


図1 「心に関するアンケート」調査クロス集計結果I

◆自分自身が好きだ。(小1～4:Q26 小5～:Q21)

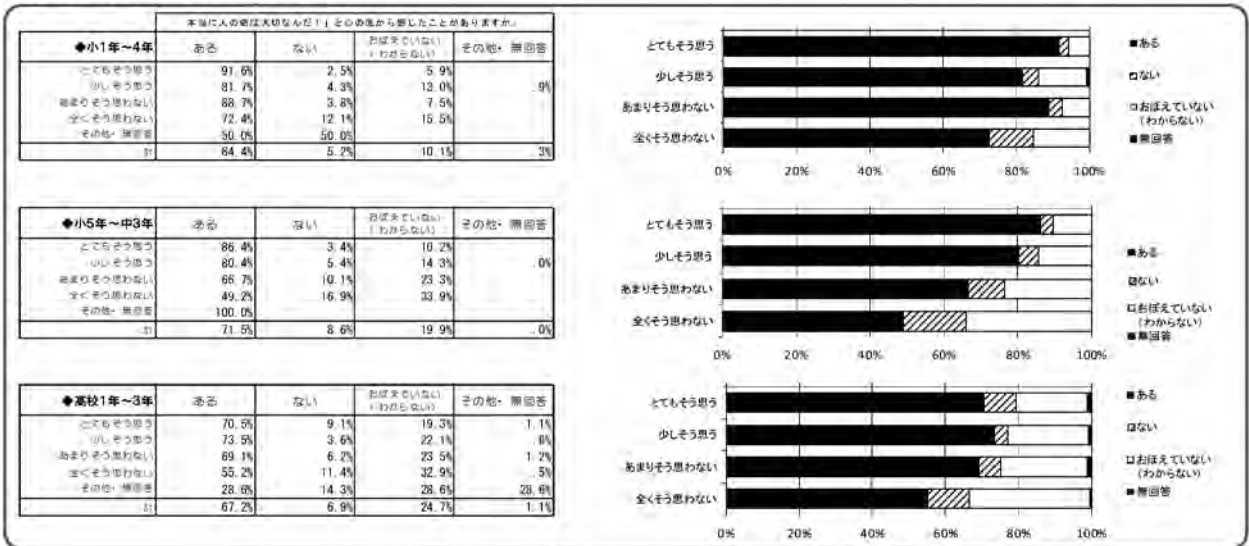


図2 「心に関するアンケート」調査クロス集計結果II

◆わたしは、先生や友達、家族など周りの人に支えられていることに感謝している。(小1～4:Q27 小5～:Q22)

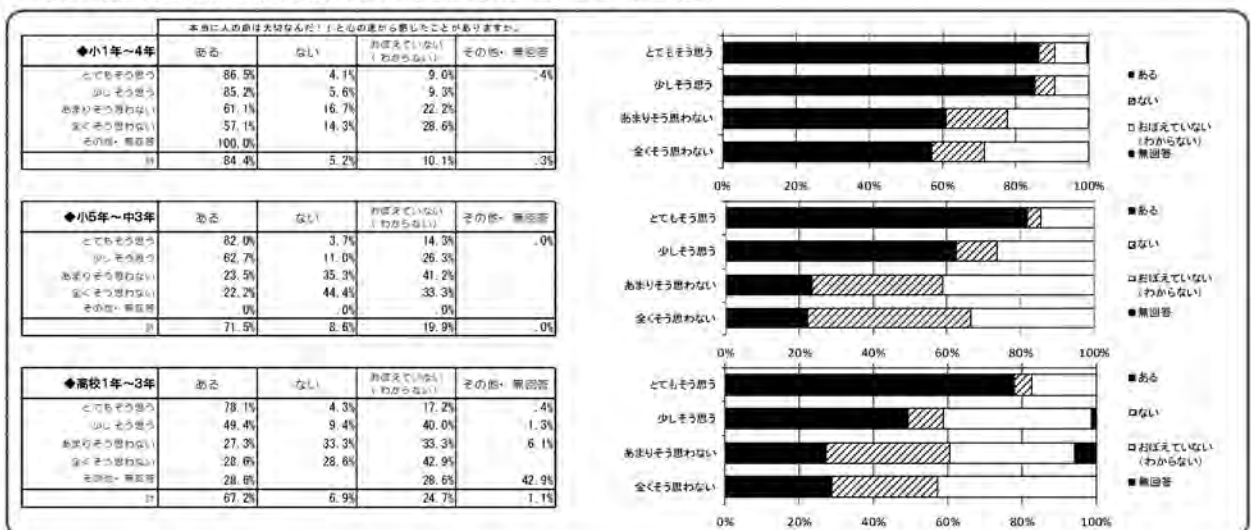


図3 「心に関するアンケート」調査クロス集計結果III

◆わたしには、得意なことがあります。(小1～4: Q28 小5～: Q23)

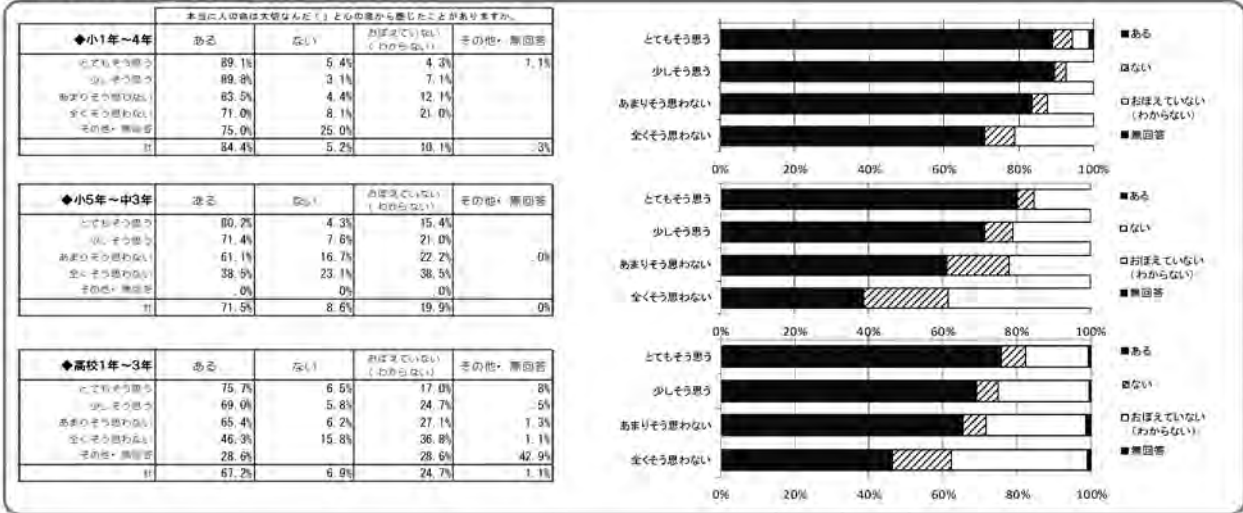


図4 「心に関するアンケート」調査クロス集計結果Ⅳ

◆わたしには、よいところがあります。(小1～4: Q29 小5～: Q24)

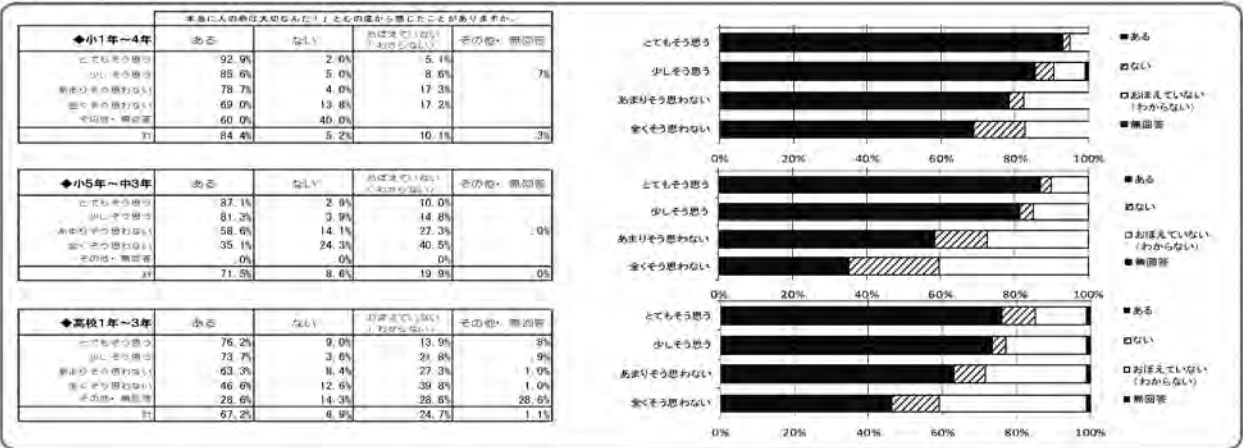


図5 「心に関するアンケート」調査クロス集計結果Ⅴ

◆わたしは、その時、その場で自分なりに精いっぱい努力をすれば、最後には必ず大きな成果が得られるに違いない、と考えています。(小1～4: Q30 小5～: Q25)

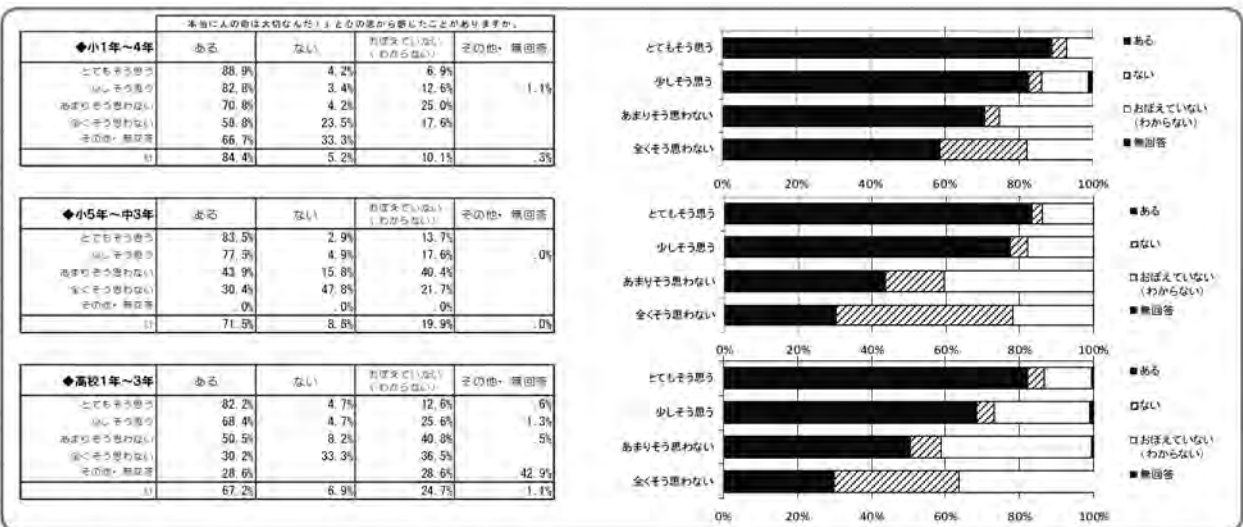


図6 「心に関するアンケート」調査クロス集計結果Ⅵ

◆わたしは、今までと違う新しいことに、いつでもチャレンジし、自分の可能性を広げていきたいと考えています。(小1～4:Q31 小5～:Q26)

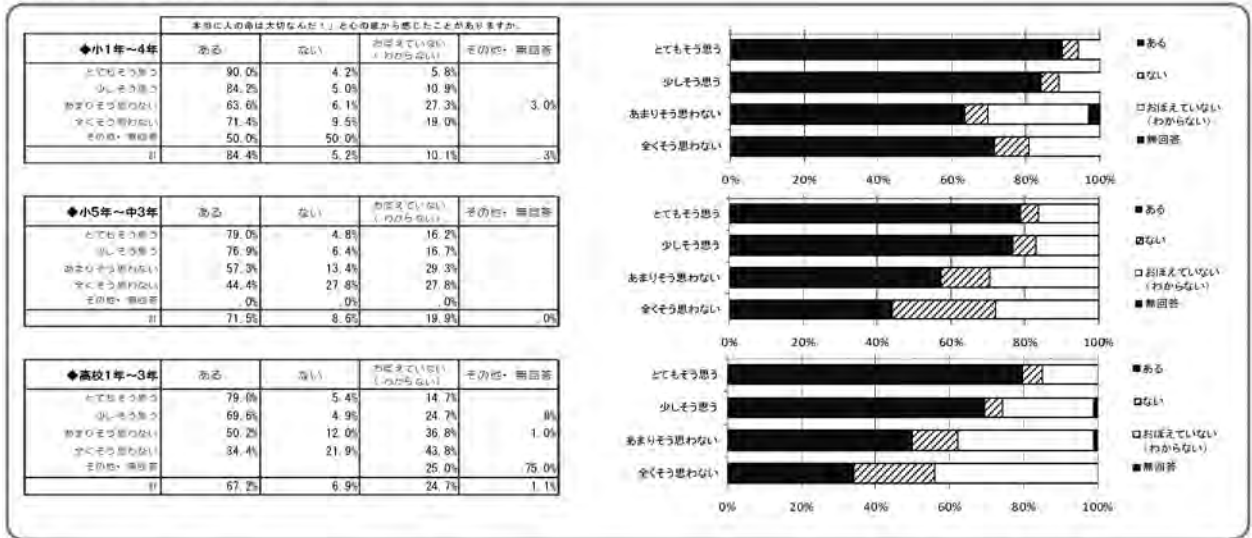


図7 「心に関するアンケート」調査クロス集計結果Ⅶ

【謝辞】

被験者の児童・生徒、並びに被験者の保護者の方々、調査にご協力いただいた教育委員会、被験者所属の校長先生はじめ諸先生方、関係の皆様、また、ご多忙中にもかかわらず、何度も、ご丁寧なるご指導をいただいた奈良学園大学学長梶田一先生、「いのちの教育実践研究会」近藤肇宏理事長先生には、衷心よりお礼を申し上げたい。

【引用・参考文献】

- ・青木省三『思春期の心の臨床』金剛出版 2011
- ・梶田一『自己を生きるという意識〈我的世界〉と実存的自己意識』金子書房 2008
- ・梶田一『〈いのち〉の自覚と教育』ERPブックレット 2012
- ・梶田一・住本克彦「総合質問紙調査『i-check』」東京書籍 2013
- ・河合隼雄『子どもの宇宙』岩波新書 1987
- ・河合隼雄『いのちの対話』潮出版社 2002
- ・近藤卓『基本的自尊感情を育てるいのちの教育』金子書房 2014
- ・住本克彦「子どもたちの『心の声』に寄り添った教育実践を－『i-check』を活用した学級づくりの提案－『i-check 実践事例集1(小・中学校)』東京書籍 2013
- ・住本克彦「構成的グループエンカウンター：職員研修」國分康孝・國分久子編『構成的グループエンカウンター事典』図書文化社 2005

- ・住本克彦「教員研修」兵庫県教育委員会、いのちの大切さを実感させる教育プログラム作成委員会『<命の大切さ>を実感させる教育への提言』2008, 63-100
- ・住本克彦「いのちの教育予備調査から見てきたものⅠ－児童・生徒のいのちに対する意識の実態－」いのちの教育実践研究会『いのちの教育実践研究会記録集』2013, 17-34
- ・住本克彦「いのちの教育予備調査から見てきたものⅡ－児童・生徒のいのちに対する意識の実態－」いのちの教育実践研究会『いのちの教育実践研究会記録集』2013, 35-39
- ・住本克彦「いじめ防止教育プログラム」の開発研究Ⅰ－総合質問紙『i-check』を活用した「いじめ防止教育プログラム」－環太平洋大学研究紀要第8号 2013
- ・住本克彦「学校カウンセリングの立場から見た人権教育に関する一考察－「命の大切さ」を実感させる教育プログラムの開発・実践から－」財団法人兵庫県人権啓発協会研究紀要 第9号 2009
- ・兵庫・生と死を考える会「(財)21世紀ヒューマンケア研究機構実践研究支援事業報告書」2005